令和7年3月3日

保護者　様

長崎市立小江原小学校

校　長　　秋山　壽哉

学校評価アンケートの結果について

春暖の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じます。日頃より、本校教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、学校評価アンケートについては、お忙しい中にご回答いただき、誠にありがとうございました。アンケートの集計が終わり、学校評議員会を終え、対策等の見直しを行いましたのでご報告いたします。

結果については今年度の教育活動の効果等を振り返る貴重な資料とし、今後の教育活動に生かしてまいります。

１　自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果（肯定的割合・%） 児童生徒	保護者	教職員	分析及び改善策
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	86	73	87	教育目標の達成については、肯定的割合が昨年度より保護者で9%増、教職員で41%増。また、学校の雰囲気については、児童で4%増、保護者で2%増であった。今年度は「みんなで新しい小江原小学校を創る」と銘打ち、自律と尊重の心と態度を育むべく、指導事項の共通理解・共通実践を徹底し、全職員一丸となって本気で取り組んだ結果であると考える。今後も継続してさらなる教育目標達成を目指す。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	88	75	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			100	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	50	63	50	「ルールやマナー」の項目は、肯定的割合が昨年度より保護者で1%増、教職員で42%増であった。また、「挨拶」の項目は、児童で6%増、保護者で7%増、教職員で18%増であった。この２項目は本校の継続課題であったが、今年度改善傾向が見られた。「ルールやマナー」については、毎学期初めに「小江原っ子の約束」の規則理解や意義理解の時間を設定したこと。全教室内への掲示の徹底や全教職員での時機を逃さない指導や支援などを行った。「挨拶」については、立哨活動や委員会活動とコラボした見回り活動などを行った。毎学期定期的に具体的方策を立て実践し続けた結果であると考える。今後もＰＤＣＡサイクルを強化し、取組を継続する。
		挨拶をよくしている	92	63	80	
		「あ・は・は運動」を知っている（小学校のみ）	95	90	86	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	92	80	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	68	69	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	96	79	64	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	97	85	86	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	96	83	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	86	85	100	領域全体を見ると肯定的割合は高いが「家庭学習の習慣」に関しては、児童と保護者の肯定的割合が低かった。児童や保護者に家庭学習の重要性を説き、目的意識をもたせることや、授業と家庭学習の連動、ＡＩ型ドリルによる家庭学習進捗状況の把握など、引き続き、発達段階に応じた支援・啓発を行っていく必要がある。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	96	87	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	73	65	85	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	89	69	100	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	91			

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	87	82	100	「保健・衛生」「食育」ともに昨年度同様、肯定的評価割合は高い。しかし「体力向上」の基本的生活習慣の項目においては、肯定的割合が1～19%下がっている。今年度は「小江原版あ・は・は運動」への取り組みを年２回実施したが、その結果を見ても早寝が出来ていない児童が多い。減メディア同様、早寝についても学校保健だよりで健康被害や効果などを啓発すること。また、育友会と連携し学校保健委員会や懇談会で話題として挙げるようにする。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん（基本的生活習慣）が身に付いている	77	84	64	
		体力向上に努めている	86	86	93	
	食育	食に関する教育活動を行っている	84	79	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	95	81	93	どの項目も高い水準を得ることができた。特に、情報提供の項目においては、肯定的割合が昨年度より保護者で9%向上した。昨年度の反省から、教育活動に関わる情報を紙媒体と連絡アプリを併用し、積極的に発信した結果であると考える。ＨＰの更新も含め、今後も継続して発信していきたい。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	94	79	100	
	ＰＴＡ・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	95	88	100	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	92	71	88	環境整備の項目で保護者の評価が15%向上した。年度初めから、不用品の廃棄、廊下や教室の掲示物の工夫などの整備を徹底した結果である。今後は、図書館の蔵書充実やＩＣＴ環境の整備など、学習意欲を高める環境づくりへも取り組んでいく。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

２ 自己評価のまとめ（成果・課題・対策等）

アンケート結果の肯定的割合（%）を昨年度と比べてみると、昨年度、肯定的割合が62%未満（４点満点中、平均点2.5点未満）の枠が71枠中8枠あったのが、今年度は2枠のみとなった。また、71枠中52枠においては、肯定的割合（%）が同値か増加しており、全体的にみると改善傾向にあり、一定の効果は表れている。

今年度はスタート時から「みんなで新しい小江原小学校を創る」という合言葉を掲げ、定期的に周知をし、意識付けを図った。また、職員内で再度、学校評価の分析と考察をし、指導事項の細かな部分まで共通理解を図り、共通実践を徹底した。改善に向かい職員が一丸となって取り組んだことや、児童・保護者も含めて、チームで改革を推進することができた結果がこの成果を生んでいると考える。今後も見届け、励ましまでの支援を継続していく。また、特別な配慮を要する児童への対応は、チームで対応し、根気強く、全児童を全職員で育てる意識を高めていく。

課題としては、まだまだ低評価である「ルールとマナー」「家庭学習の習慣化」「早寝・早起き・朝ごはん（基本的生活習慣）の定着」のさらなる改善である。再度、年度末に全職員で今年度の取り組みを分析し、新たな方策を立てて実践していく。特に、『定期的な善行児童の表彰』や『授業とＡＩ型ドリルの連動』『小江原版あ・は・は運動の促進』については取り組みの強化を図るべく中身を検討していきたい。また、児童の関わる力を高めるソーシャルスキルトレーニング『ばるっこタイム』は一定の効果が見られてきたところである。さらに特別活動の視点を組み込みながら、改良し継続していきたい。

３ 学校関係者評価

・昨年度と比べ学校全体が落ち着いた印象である。
・学校が明るくなった。雰囲気が変わった。
・昨年度より、教室に入ると空気が、雰囲気が変わったのがわかる。校内全体が明るい雰囲気になった。
・子どもたちの１年間で大きく成長した姿が見られた。
・挨拶は随分よくなった印象。挨拶されると元気が出る。声を掛けてくれると嬉しい。これからも継続してほしい。
・少しでも地域と学校がつながっていると、よい状況を伝え、広めることができる。
・環境整備に関しては、老朽化が見られる部分はあるが、玄関掃除や廊下の不要品の撤去など、できることをすることが大切である。保護者はそれを見ている。
・子どもが伸びていくために、１年生と６年生への指導はとても大切だ思う。特に６年生に関しては、中学校へと良いつなぎをしてほしい。

４ 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

今年度の結果を検証したうえで、特に、以下の点を重視した取り組みを推進する。

○心の教育領域に関しては『ルール・マナーを守る』のさらなる向上を図るべく、昨年度同様、まずは「小江原小よい子のルール」「よくわかる小江原小」の規則理解や意義理解の時間を設定し、定期的に指導を続けていく。そして、全教職員で時機を逃さない共通指導や支援を徹底する。児童がルールを守ることが安全な学校生活につながることを理解しながら実践できるようにする。また、『いじめ防止対策』や『人権教育』の取り組みも重視する。「ばるっこタイム」を発展させて、今年度の実践プラス、社会的・情動的学習（ＳＥＬ）を効果的に取り入れる。子どもたちの感情理解や豊かな人間関係の構築等を図っていく。
○確かな学力領域に関しては、本校は次年度より「令和の生きる力プロジェクト実践協力校」としての取り組みを推進していく。児童が自己調整をし学びを進める「個別最適な学び」実現の一つの方策として、普段の授業と家庭学習を連動させて『家庭学習の習慣化』を図っていきたい。また、取組推進や教職員スキルアップのための校内研修の充実も図る。
○健やかな体領域に関しては、各家庭や育友会と連携・協力しながら児童の基本的な生活習慣の確立を求めていく。特に、「小江原版あ・は・は運動」についてはＰＣを活用したGoogle formでのアンケート形式を継続しながらも、項目等を工夫して、早く寝ることの大切さが理解できるようなものへと進化させていく。